

# 地域で生きる 女性開業医として

かわなかクリニック院長

佐野 由衣 さの ゆい

名古屋大学卒業後、名古屋第一赤十字病院、藤田医科大学ばんだね病院で麻酔科医として勤務。手術麻酔、ペインクリニック、緩和医療、東洋医学に携わる。2014年かわなかクリニック開院。ペインクリニックと漢方を中心に、かかりつけ医としての診療も行っている。



名古屋市の下町である北区で開業して6年半が経過した。開業して良かったことは、自分の判断で新しいものを取り入れられる小回りの良さだと思っている。一方、大変なことは常に人事だ。開業当初は従業員に遠慮して注意しづらかったが、駄目だと気づき、最近は早めに注意するようにしている。診療所は徐々に地域に受け入れられ、やりがいと責任を感じている。近隣の病院、診療所、訪問看護ステーション等と連携して、地域の方に安心して通ってもらえる診療所をつくっていきたい。

当院は名古屋の北の外れ、北区にある小さな診療所である。名古屋駅前はこの10年ほどで高層ビル群が立ち並ぶ街に様変わりしたが、当院の周りは昔からの住民が多く、北区の高齢化率は28.4%と名古屋16区の中で2位となっている(2017年調べ「高齢者の現状と将来推計」、名古屋市公式ウェブサイトより)。昼間に外を歩いている人のほとんどは高齢者で、コンビニでは単身世帯や高齢者向けのお惣菜や冷凍食品のコーナーが充実している。

この地で開業したのが6年半前。開業の理由を聞かれれば「何となく」としか答えようがない。医師になって10年ほど、子育てとの両立に追われながらも仕事を続けてきた

おかげで、一通りの日常診療はできるようになった。さて次の10年後の目標は、勤務医として学会で各地を飛び回ることか、あるいは開業医として毎日地域の患者さんと直接向き合い、長期休暇に旅行に行く生活か。どちらが私と家族にとって幸せかを漠然と考えた上での自分本位な選択であった。

開業して良かったことの一つは小回りが利くことだ。新しい医療機器や薬を採用するにも、病院では科の予算や薬事委員会等多くの手順を踏む必要があった。今は患者さんやクリニックのために必要な物は誰に相談しなくとも取り入れられる。新しい物が大好きな私は、電子カルテは何社もデモしてもらい、予約システムも入れた。中でも2020年に導入

した自動精算機はとても良い。会計ミスがなくなるし、事務員の残業も減った。

## 悩みは従業員への対応

もちろん「こんなはずじゃなかった」ことも多い。やはり1番の悩みは常に人(従業員)だ。従業員同士の仲が悪い時期、お金が合わないことが続く時期や、一生懸命育てた新人が数カ月で辞めてしまったこともあった。開業当初は従業員に対し優しい院長でいたがために、なかなか注意できないことも多かった。ある時、それが従業員の態度を助長させ、状況を悪化させていると気付いた。一部の不真面目で非協力的な、あるいは協調性のない従業員に注意しないと、間接的にその他の一生懸命頑張ってくれている従業員に不利益を与えてしまう。従業員の態度が手の付けられないほどになってしまうと、クリニックを守るために、最終的にはその人に辞めてもらうしかない。期待を持って雇い、一緒にクリニックを支えてくれた人に辞めてもらうのはとても辛い。そんな経験を繰り返さないために、最近はその場で注意するように心掛けている。口うるさいおばさん院長に進化しつつある。

開業当初は患者さんも少なかったが、最近では地域に受け入れられていると感じる。「足が悪いから近くに診療所ができてよかった」「体のことは全部先生に任せてあるから」そんな声を患者さんからかけてもらうたび、大きなやりがいを感じ、また、責任に身が引き締まる。

日々の診療で気を付けていることは、抱え込まないこと。私の専門外の疾患を抱える患

者さんが来院することも多く、少しでも不安があれば専門医療機関に相談、紹介するようにしている。また、当院では年間5人程度と数は少ないが、在宅での看取りも実施している。その際は訪問看護師やケアマネジャーとの連携も欠かせない。幸いにして地域に信頼できる訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所も多く、日々助けてもらいながら仕事ができることに感謝している。

「人生の扉は他人が開く」とは私の座右の銘で、私が勝手にお慕いしている福島県立医科大学元学長の菊地臣一先生のお言葉である。置かれた環境を嘆くのではなく、今自分ができる最善を考えること。そしてそこに現れた出会いを大切にすること。

私は、この地方都市の片隅で診療所をやっていくと決めた。決めたからには、患者さんに安心して通ってもらえる、病院や地域の同じ志を持った診療所の先生方と連携がとれた診療所をつくっていききたい。そして、究極の目標という意味では、自身が将来、歳をとって死ぬときに信頼できる先生に診てもらえ、安心して過ごせる地域医療をつくっていききたい。

目標は壮大でも実際は雑務に追われ、人事や経営に悩まされる日々。積み上がった借入金のために開業医のイメージとしての優雅な生活は程遠い。

それでも、もうすぐ7年が経とうとしている。なんとなく開業しても何とかなる、というのは、これから開業する先生方に自信を持ってお伝えしたい。きっとこれからも「こんなはずじゃなかった」を繰り返しながら、日々は続いていくのだろう。